

日時：令和 8 年 4 月 15 日（水） 15：00～ 17：00

方式・場所：日本応用地質学会事務局（WEB 併用）

出席（対面）：船山部会長、佐伯幹事、宇田川、塚本、 各委員（4 名）

出席（WEB）：堀副部会長、大谷幹事、清崎、塩崎、菅野、大野、 各委員（6 名）

欠席（委任）：宇佐美幹事、山本、磯部、池見、竹村、福田、 各委員（6 名）

不明：太田、島村、 各委員 （2 名）

計 18 名

その他：稲垣顧問（1 名）

議事録

1. 部会長挨拶

- ・出欠を確認した。

2. 令和 7 年度第 6 回部会議事録案の確認

- ・議事録の内容について確認した。（堀副部会長）

3. 各種報告

1) 研究部会体制の件（船山部会長）

- ・体制の変更について

竹村副部会長⇒委員、堀幹事⇒副部会長、佐伯委員、宇佐美委員⇒幹事

- ・新任 1 名（3 月理事会承認）：大野委員

新任の大野委員より自己紹介を頂いた。

- ・名簿更新について報告した。

2) 理事会報告関係

- ・理事 1 名のご逝去（追加募集検討中）

佐々木理事がご逝去された。理事の追加募集を行ったが立候補はなかった。

- ・R8 事業計画、R7 事業報告を行った。

R8 年度は、7 年度の研究計画と同様であるが、地質汚染や気候変動への対応なども適宜検討する。

3) 学会 HP の更新（磯部委員、船山部会長）

- ・R7 以降、随時議事録を追加掲載する。

4) 他委員会の報告

- ・特になし

4. 再生可能エネルギー連載

- ・JPGU2026 大会の一般向けパブリックセッションにて、環境災害委員会（日本応用地質学会参加）から気候変動と再生可能エネルギーの内容でセッションに参加する。
- ・再生可能エネルギーと応用地質技術に関して、学会誌連載シリーズの内容で部会長が発表する。本日発表スライドを確認した。参考に提示している CCS 技術は再生可能エネルギー技術ではないため割愛する。

5.WG 活動報告

(1) WG 概要

環境地質研究部会 ワーキンググループ 活動状況					
グループ番号	グループ名	担当 ○：リーダー	活動概要	R6計画 2024	R5実績 2023
WG-A	ジオ・メリット研究グループ	○宇佐美委員、清崎委員 ○山本委員、池見委員、佐伯委員 堀崎委員	地域の地質の恩恵や防災上の留意点について、一般市民への啓発活動や地域産業等への貢献に関する研究を行う。	・公園展示の石や建築物石材などの市民への解説 ・公園関係者への防災教育協力	・、都立武蔵野の森公園を訪問し、公園展示の「ふるさとの石」の補足解説や防災活動への協力について継続的に意見交換
WG-B	人工構造物研究グループ	○大谷幹事、竹村副部長 磯部委員 ○堀幹事	道路等のインフラや盛土等の人工地層に影響を及ぼす地質条件に関する研究を行う。	・能登半島地震での被害との関係について研究、研究発表会で発表	・「神奈川県」の古代東海道」の研究報告 ・盛土規制法の話提供
WG-C	自然環境研究グループ	○船山部会長、竹村副部長、島村委員、佐伯委員	自然環境を活用した応用地質技術に関する研究を行う。		
WG-D	再生可能エネルギー研究グループ	○清崎、船山、宇佐美、堀崎、堀	再生可能エネルギーについて、応用地質分野とかかわりのある事項について研究を行う。	・再生エネルギー学会誌連載のまとめ、研究発表会で発表	・令和5年9月9日（土）に神奈川県相模川流域において巡検 ・第12回2023/4月号掲載 海洋エネルギーを利用した発電技術と応用地質 ・洋上風力発電の海底地盤調査について、田中氏（基礎地盤コンサルタント）より話題提供

(2) WG 活動状況

1) WG-A ジオ・メリット研究グループ

①武蔵野の森公園関係（企画、防災支援の件等）（佐伯、宇佐美幹事、大谷幹事）

- ・3/20 防災行事後援報告を行った。（2/11 キッズ防災フェスタ後援の縮小実施）
- ・報告については、5月15日までに写真を付けて学会誌に投稿する（学会記事：佐伯）。
- ・その他防災教育に関して、アウトリーチ活動として、武蔵野の森公園との関係性は継続していく。

②「ふるさとの石」解説シート＋日本地質図の進捗状況（佐伯、大谷幹事、堀副部長、宇佐美幹事、清崎委員、船山部会長）

- ・支部への協力依頼の状況を報告した。（船山部会長）
- ・解説シートの管理表の説明を行った。（船山部会長）

（解説シートの作成状況）

以下のとおり確認した。

- ・北海道：札幌軟石のシートを、北海道支部提供写真で作成する（船山）。橄欖岩について作成する（菅野）。
- ・東北：東北支部に依頼中で、内容を確認する（船山）。
- ・栃木県：作成したためサーバーにアップする（佐伯）。
- ・埼玉県：追加作成中（船山）。
- ・千葉県：房州石作成中（大谷）。

- ・山梨県 2 件；作成しサーバーにアップした（佐伯）。
- ・新潟県：ヒスイについて北陸支部より材料の提供を受けた（博物館の写真は引用了承済み）ため、これをもとに作成する（宇田川）。
- ・長野県：作成中で追加写真撮影予定（佐伯）、天竜峡の石を作成予定（宇田川）。
- ・富山県：黒部川トラ石を中部支部で作成中、完成後確認する（船山）。
- ・石川県：中部支部で作成中、完成後確認する（船山）。
- ・三重県：那智黒石を作成した（佐伯）。別途中部支部で作成中、完成後確認する（船山）。
- ・岐阜県：チャート：中部支部で作成中、完成後確認する（船山）。
- ・関西：関西支部（北田副部長）に依頼中で、塚本委員で進める。
- ・中国四国：中国四国支部に依頼中（徳島県の阿波の青石等）で、完成後確認する（船山）。
- ・九州：九州支部（池見支部長）に依頼中（大分県の別府石等）で、完成後確認する（船山）。
- ・東京都：都内の石材の題材を収集予定（佐伯）。

（今後の作成予定について）

- ・各支部には、5 月の半ばごろを目途に状況報告をお願いしている。
- ・シート番号について、研究部会が選定した石と武蔵野の森に展示の石を大きく A と B に分け、都道府県順に整理番号を付した。今後、各石の解説シート中およびファイル名に整理番号を付して学会サーバーのデータを整理する（船山）。
- ・ふるさとの石の解説シートについては、今後も武蔵野の森公園と連携をすることとする。府中高校地学部との連携も含める。
- ・武蔵野の森公園パンフレット説明の不適切箇所の修正についても提案を行う。

（その他今後の方向性について）

- ・石の解説を一般向けであれば、観光の切り口があるのではないかな。東京街歩きなどで町中に使われている石材についての説明がある。景観については、岩石の硬軟や割れ目系などの性状と地形景観の説明などが考えられる。
- ・アウトリーチの方法として、カードやカレンダーにしてもいいのではないかな。

（R8 年度研究発表会について）

- ・R7 年度発表内容の後続報告として発表を予定する（ポスター予定）。
⇒R7 は、地質大区分と都道府県の地質別面積、代表的な都道府県の石の解説シートの事例を発表した。
⇒R8 は、作成例について、地質別（都道府県別）の岩石の利用・恩恵を応用地質学的に考察し、地質学会の県の石と差別化した内容としたい。テーマは大きく石材と景観に分け、石材としての使われ方や地域を作っている景観について報告する。可能であれば、石が地域の文化にどのように浸透しているのかをコメントすることも考えられる。

③「日本酒と地質（仕込み水）」について

- ・R8 研究発表会が長岡市開催のこともあるため、学会誌ジオ・メリットシリーズで連載した、日本酒と地域の仕込み水のテーマで、新潟県の地酒を含めたポスター発表を予定する（船山）。
- ・参考に、ダイバーシティ委員会では、研究発表会のセミナーで日本酒の話題提供を計画しており、新潟大学日本酒学センターに相談するとの話がある。

④「ジオ・メリット」学会誌連載シリーズスキャンニングと HP 掲載

- ・当面は、学会誌をスキャンしたものについて内容を確認後、学会 HP アップを予定する。
- ・連載の第 4 回目以降（全 51 回）は印刷会社に原稿が残っており、印刷会社に整理依頼中。査読（簡易査読）は学会誌掲載時に編集委員会で実施しており問題ないと思うが、念のため HP アップ前に、写真、内容、出典関係のチェックを行う（塩崎委員、堀副部会長、大谷幹事、舩山部会長予定）。
- ・応用地質学会に著作権があるため HP 掲載は問題ないと考えられるが、写真など必要に応じ黒塗りとする方法もある。
- ・原稿は、印刷会社から上がったものをサーバーに上げておく。

2) WG-B 人工構造物研究グループ（インフラ、盛土等の人工地層など）

- ・インフラ（海岸隆起と人間活動）の話題提供等（大谷幹事）
8 月か 10 月の部会で話題提供を予定する。
- ・人工地層の話題提供等（磯部委員、舩山部会長）
築城の盛土についての話題提供について、磯部委員に確認する。
- ・廃棄物埋め立て地、人工地層の維持管理などのテーマについて引き続き検討する。他学会の切り口をレビューしたうえで、応用地質学会としての切り口を探ることが考えられる。

3) WG-C 自然環境研究グループ

- ・話題提供（舩山部会長）
地表地質踏査における植生の見方のテーマで知見のレビューの話題提供を予定する。

4) WG-D 再生可能エネルギー研究グループ

- ・JPGU2026 大会で発表予定（前記）

5) 今後の研究計画・企画

●地盤汚染、地下水汚染、廃棄物（放射性物質を含む）

- ・廃棄物処分における地質環境・解析手法に関する研究小委員会（以下、廃棄物小委員会）では、複雑な地下水の流れや、廃棄物処分場の安定計算の際の物性の評価（不均質）などを検討している。
- ・土木地質研究部会では、トンネルズリの自然由来重金属の取り扱いを地質リスクの検討で実施している。
- ・廃棄物小委員会とテーマを住みわける場合は、土壌汚染（廃棄物処分場以外の工場による汚染）に絞ることも考えられる。土壌汚染の分野については、地下水研究部会でもテーマと考えられる。
- ・各研究部会間のテーマの扱いについては、理事会に確認を行い、引き続き検討を行う。

●資源系

- ・レアアースなどが考えられるが、アプローチ方法など課題も多いため当面保留する。

6) 各 WG 活動・報告スケジュールについて

- ・部会時開催時の主な予定など

6.話題提供、巡検等

(1) 巡検

・2026年度に向けて

候補1：産総研（つくば周辺）の地質標本館の見学、周辺の斑レイ岩・花崗岩の観察。

産総研の地質標本館は休日も開館している模様である。

候補2：群馬(下仁田周辺)：構造地質（ジオ・パーク）、周辺の石碑等。

時期は秋ごろを予定する。

候補1、候補2について、具体的な視察箇所を次回以降検討する。

(2) 話題提供

・特になし

7. 予定その他

1) 次回研究部会日程

6月10日（水）15：00～17：00

以上